

木などを入れて金網と包埋した死体の間になるべく隙間をつくる方が良い

できれば包埋した死体の上に、さらに生分解性シートをかける（その場合は、金網からはみ出さないようにする）

包埋した死体は近くの立木などで固定する

金網の接合部分は結束バンド等で補強する

なるべく間隔を詰めてアンカーを打つ

全体に覆土する方が良い
（できない場合は端っこだけでも覆土する）

最後に全体を覆土する

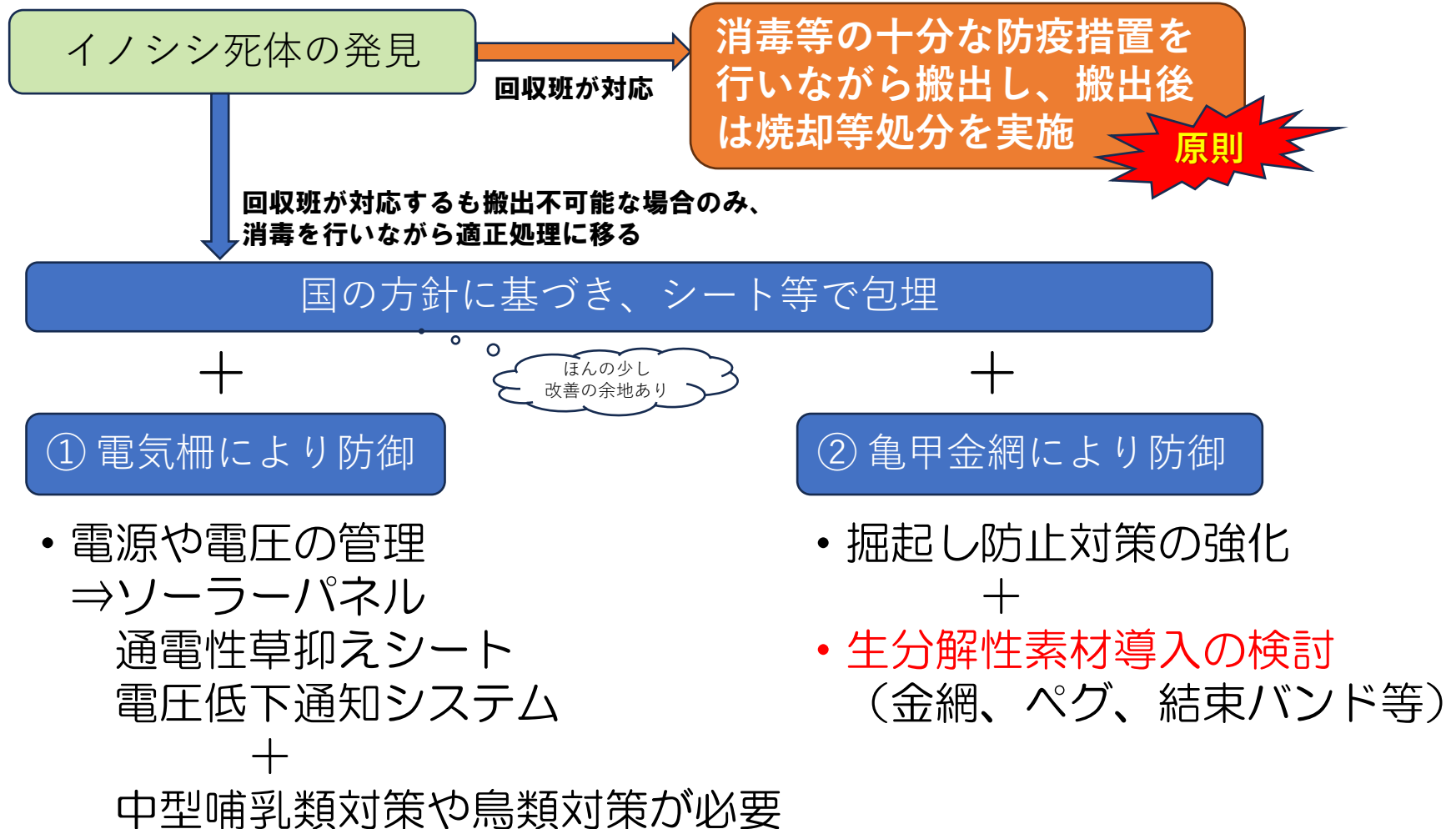
金網の端っこ部分は補強を兼ねて2重折り以上する方が良い

タヌキ、アナグマ、ニホンジカ、イノシシ



死体の適正処理のフロー（案：R6時点）

イノシシの死体を積極的に探索して発見した場合



16 ▶ **ただし、搬出することが原則であることに留意**

野生動物によるイノシシ死体分散等のリスク



- 適正処理が不十分な場合
⇒短期間で接触と腐肉食による骨などの分散が発生
- 適正処理がある程度行われている場合
⇒臭気の漏れにより野生動物の誘引が発生
 - ・ 接近後も接触に至らないこともあるが、接触（最初は匂いを嗅ぐ行動）から腐肉食等の発生に短期間で繋がる可能性が高い
 - ・ 腐肉食が観察されない場合にでも、適性処理（シートを破る、亀甲金網を破るなど）の破損の原因となる場合もある（事例としてはアナグマ）
- 一旦、腐肉食が発生した場合、他の死体への腐肉食が発生しやすくなる可能性がある（学習効果！？）